

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長  
(公印省略)

病害虫発生予察特殊報について

平成 30 年度病害虫発生予察特殊報第 8 号を発表したので送付します。

平成 30 年度病害虫発生予察特殊報第 8 号

- 1 病 害 虫 名 : サツマイモ基腐病 (仮称)
- 2 病 原 菌 : *Phomopsis destruens* (Harter) Boerema, (1996)
- 3 発 生 地 域 : 沖縄本島、伊平屋島、久米島、宮古島、石垣島
- 4 発 生 作 物 : カンショ

5 発生確認及び発生状況

平成 30 年 5 月、カンショの黒褐色に腐敗した地際部の茎及び塊根が沖縄県病害虫防除技術センターに持ち込まれた。沖縄県南部農業改良普及センター及び当防除技術センターにおける *Phomopsis* 属までの簡易同定、及び農林水産省那覇植物防疫事務所に分生子及び分生子塊などの形態的特徴及び 18SrDNA-ITS 領域の遺伝子解析の結果から、国内未発生の *P. destruens* (英名: foot rot) による病害であることが明らかとなった。国外では、台湾、中国、タンザニア、南アフリカ、ニュージーランド、米国、キューバ、ジョージア、カリブ諸国、ブラジル、ペルー、アルゼンチンで発生が知られる。県内の分布について調査した結果、沖縄本島、伊平屋島、久米島、宮古島及び石垣島で被害が確認された(11 月現在)。

6 病 徴

はじめ、地際部の茎及び茎に近い部分の塊根が黒色～暗褐色に腐敗する (図 1~4)。被害が進行すると、茎の上部及び塊根全体に腐敗が広がり、乾燥して硬くなり、やがて株が枯死する。

7 病原菌の特徴と伝搬方法

糸状菌の 1 種で不完全菌類に属する。分生子 ( $\alpha$  胞子) は、大きさ  $5.4\text{-}8.3 \times 2\text{-}4.1 \mu\text{m}$ 、無色、単胞、楕円形～紡錘形で両端に小油滴を有する (図 5, 6)。

宿主植物は、ヒルガオ科植物全般であるが、栽培作物での被害はカンショのみである。本病は、罹病したつるや塊根を植えることで広まる。害虫などによる傷により菌の侵入が助長される。当菌は、植物体から離れると、土壌中で長く生存できない。国外では、品種により感受性が異なることが知られる。

8 防除対策

- (1) 苗床用及び植え付け用の穂づる及び種芋は、本病が発生していないほ場から採取したものを植え付ける。
- (2) 苗床は、殺菌消毒を行う。
- (3) 発病した株はすみやかに抜きとり、感染源とならないように処分する。
- (4) ほ場内外のヒルガオ科植物 (ノアサガオ、ヨウサイなど) の除草に努める。
- (5) 発生ほ場では、収穫を早めに行う。特に、かんしょ肥大期の台風による茎の損傷増加と湿度が高い状態が続く時は、早めに収穫する。

- (6) 収穫後、ほ場からカンショの残さを速やかに除去する。
- (7) 本病発生ほ場で使用した資材及び機材は、他のほ場に使用する時は土などをきれいに落とし、洗淨する。
- (8) ゾウムシ類などの土壌害虫の防除に努める。
- (9) 植付前に、排水対策や土壌消毒を十分に行う。



図1 ほ場での発生状況

図2 株元のつる枯状況



図3 腐敗した塊根

図4 被害塊根断面図

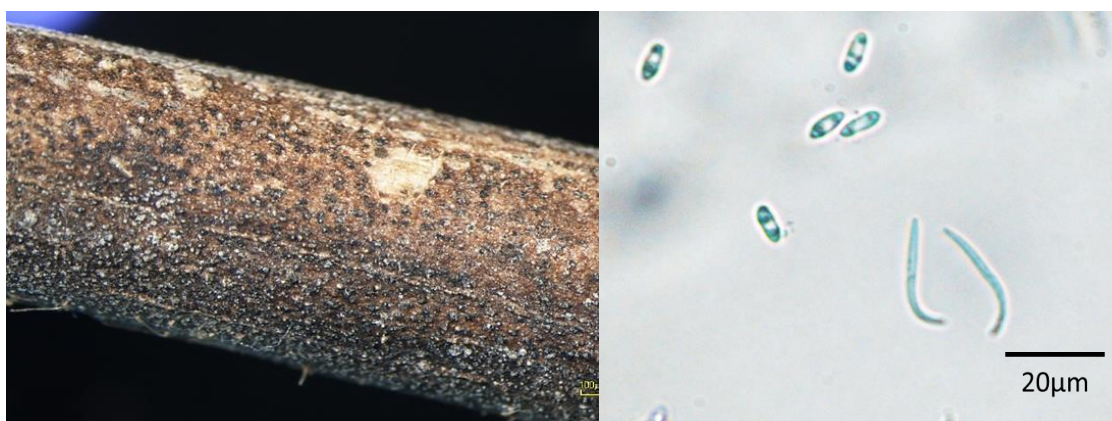


図5 つるの黒斑部位上の分生子殻

図6 分生子 (上部:  $\alpha$  孢子; 下部  $\beta$  孢子)

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL: (本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0980-82-4933

ホームページアドレス: <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojjo/index.html>